

1 地域活動協議会の現在の状況についての分析

| 項目 | | |
|-----------------------------|------------------------|--|
| 「自律的運営に向けた地域活動協議会（イメージ）」の取組 | (1) 「Ⅰ地域課題への取組」についての分析 | <ul style="list-style-type: none"> ●各種データや地図などの資料分析を行うことで地域の高齢化率、地形、災害想定、居住者の傾向（年齢層、単身者世帯数など）などを理解したうえで、改めて地域課題の解決に向け、対応策についての検討を進めていく必要がある。 ●各地域の成熟度に差異が生じていることから、聞き取り等を通じて各地域の実情に合わせた効果的かつ即時的な支援が必要である。 ●地域課題やニーズに対応した活動を自主的に進めていこうとする動きが見られることから、地域の将来像を住民全体で共有しつつ、理想とする地域の実現に向けた取組を展開していく必要がある。 ●各地域の財源は豊かであるとは言い難いため自主財源確保のための取組を進めていく必要がある。コミュニティ回収未実施の地域に対しては、他地域の事例紹介、実施するにあたり課題になる事項の洗い出しなどを行い、実施に向けてさらに進んだ検討を進めていけるよう支援する必要がある。また、新たなコミュニティ回収（ペットボトル）についても導入可能な地域の検討を進めていく必要がある。 |
| | (2) 「Ⅱつながりの拡充」についての分析 | <ul style="list-style-type: none"> ●地域によって多少の差はあるが、地域活動協議会の構成団体間の連携・協働は進んできている。広報活動を強化し、地域活動協議会の意義、役割等に対する理解を深めることで新たな活動の担い手の拡大を図る必要がある。 ●市民活動ポータルサイトや地域公共人材の活用により、地域企業やNPO等との連携を進めていく必要がある。 |
| | (3) 「Ⅲ組織運営」についての分析 | <ul style="list-style-type: none"> ●組織運営については概ねすべての地域で円滑に進めることができている。 ●SNSを活用した広報活動の拡大が必要である。 |

2 支援の内容及び効果等

- (※) I：●地域課題やニーズに対応した活動の実施
 II：●これまで地域活動に関わりの薄かった住民の参加の促進 ●地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働（担い手の拡大を含む）【地域活動協議会内部】
 ●地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働（担い手の拡大を含む）【外部との連携】 ●地域公共人材の活用
 III：●議決機関（総会・運営委員会等）の適正な運営 ●会計事務の適切な執行 ●多様な媒体による広報活動

| 事業の実施状況及び効果 | I | II | III | 業務内容 | 支援状況（実績） | 左記の支援効果 | 左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 |
|-----------------------------|---|----|-----|--|---|--|--|
| | | | | | | | |
| 「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」 | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍における事業の実施支援 ●全地域活動協議会の定例会議や総会等への出席 ●事業の実施確認 ●地域からの個別相談対応 ●地域活動従事者向け情報交換会の開催 ●データ分析等による地域課題の把握、その解決に向けた助言・提案等 | <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍における地域活動の再開に向け、他区事例の収集・共有に努めた。 ●旭区版地域活動ガイドラインを作成して地域に提供、コロナ禍における地域活動の再開に向けた助言・提案等の支援を行った。 ●各地域の個別相談に随時対応、地域の声を聞き、課題の把握・解決に向けた助言・提案等を実施した。 ●大阪旭こども病院の木野先生による、新型コロナウイルスにかかる基調講演と意見交換による地域活動者向け情報交換会を開催した。 | <ul style="list-style-type: none"> ●正確な情報を迅速に収集・提供することで地域活動の再開に向けた助言・提案等を行い、地域コミュニティの希薄化を防ぐための支援を行うことができている。 ●旭区版地域活動ガイドラインを作成、活動再開に向けた具体的な指針を示すことで、本格的な再開に向けたシミュレーションや話し合いの実施に繋げることができた。 ●情報交換会の開催により新型コロナウイルスについての理解を深め、活動再開に向けた検討を進めるきっかけ作りができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルスの感染状況については今後の予測が立たない状況が続いており、引き続き情報収集に努めるとともに活動再開に向けた支援を継続して実施していく必要がある。 ●地域コミュニティの希薄化を防ぐための取組や仕組みづくりは急務であり、各地域の意見を聴取しつつ、活動再開に向けたきめ細かな支援に取り組む必要がある。 |
| | | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ●地域活動協議会の認知度向上に向けた情報発信 ●新たな担い手確保のための取組支援 ●地活協ガイドブックの改訂 | <ul style="list-style-type: none"> ●庁舎内の地活協広報掲示板の整理、リニューアルにより、来庁者に向けたわかりやすい情報発信に努めた。 ●「まちづくりガイドブック」を作成、各地域集会所や区役所庁舎内に配架した。 ●区広報紙に地活協会長インタビューの連載、地活協特集記事を掲載した。 ●コロナ禍における区内の地域活動事例をまちづくりセンターFacebook等で発信した。 | <ul style="list-style-type: none"> ●各地域で発行している「かわら版」を掲示することで、来庁者に地活協の活動を知っていただく機会を提供できている。 ●「まちづくりガイドブック」の配架により地域活動に興味を持っていただくための広報効果が期待できる。 ●多くの区民が目にする区広報紙に地活協の情報を掲載することで、地活協の認知度向上が期待できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●区民アンケート結果によると地活協の認知度は徐々に向上してきているが、まだまだ十分とは言えないことから、引き続き効果的な情報発信に努めていく必要がある。 ●「まちづくりガイドブック」を活用した効果的な広報について検討していく必要がある。 |
| | | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ●地活協運営に係る助言・提案等の実施 ●補助金会計にかかる支援 ●全地域活動協議会の定例会議や総会等への出席（再掲） ●ホームページ、広報紙（かわら版）等広報にかかる支援 | <ul style="list-style-type: none"> ●各地域の個別相談に随時対応、地域の声を聞き、課題の把握・解決に向けた助言・提案等を実施した。（再掲） ●地活協補助金の有効活用のための助言・提案等を実施した。 ●全地活協のホームページのリニューアルを支援した。 | <ul style="list-style-type: none"> ●地域に足を運び意見を聞いたり相談を受けることで、各地域状況に応じた助言・提案等の支援を行うことができている。 ●地域の実務担当者向けに個別の会計説明会を開催したことで、会計事務のスキルアップができている。 ●各地活協のホームページのリニューアルが完了したことで効果的な情報発信ができている。 | <ul style="list-style-type: none"> ●実務担当者の会計事務スキルについては徐々に向上してきているが、継続した支援が必要である。個別の会計説明会は今後も継続して実施していく必要がある。 ●ホームページやSNSを活用した効果的な情報発信のスキル向上のための支援が必要である。 |